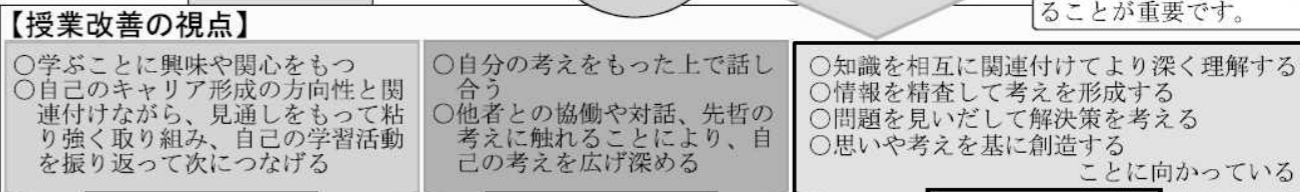


## 単元（題材）及び授業構想のポイント

### 資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

各教科等において目指す資質・能力を育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが大切です。特に、「深い学び」の鍵となるのが「見方・考え方」であり、児童生徒が「見方・考え方」を働かせて「深い学び」を実現しているかどうかについて、児童生徒を主語とした授業改善の視点をもつことが大切です。



**【授業改善の視点】**

- 学ぶことに興味や関心をもつ
- 自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる
- 自分の考えをもった上で話し合う
- 他者との協働や対話、先哲の考えに触れることにより、自己の考えを広げ深める
- 知識を相互に関連付けてより深く理解する
- 情報を精査して考えを形成する
- 問題を見いだして解決策を考える
- 思いや考えを基に創造することに向かっている

**【留意事項】**・児童生徒の姿から三つの学びの実現状況を把握し、一体として改善・充実が図られるようにする。  
・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。

**【授業改善と評価】**・指導と評価の一体化を図るためには、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かすことが大切です。  
・児童生徒が「見方・考え方」を働かせているかどうか自体は評価の対象とするものではありません。しかし、授業中での児童生徒の学びを振り返り、授業改善を行う中で、児童生徒が「見方・考え方」を働かせているかを確認し、更なる指導の改善等につなげることは重要です。

## 資質・能力を育成する「見方・考え方」を働かせることを通して

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。

「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとし、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが求められる。

この「見方・考え方」とは何なのか、「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業の実現に向けてどのようなことに配慮すればよいのだろうか。

## I 「見方・考え方」とは何か

**(1)「見方・考え方」の定義**

学習指導要領総則において、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」と定義されている。言い換えれば、各教科等にはそれぞれ学習対象があるが、その学習対象にどのようにアプローチしていくのかという視点や考え方である。従来から数学や理科などの一部の教科においては類似の概念が用いられてきたが、今回の学習指導要領では、そうした従来の整理とは別に、全ての教科について、再整理している。

**(2)「深い学び」と「見方・考え方」**

今回の改訂における審議では、「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、各教科等の資質・能力の育成の観点から「深い学び」の視点は極めて重要であるとされてきた。「深まり」を欠くと表面的な活動に陥ってしまうという指摘もあつたからである。

また、「主体的な学び」や「対話的な学び」はその趣旨が教科共通で理解できる視点であるのに対し、「深い学び」の在り方は各教科等の特質に応じて示される必要があるとされ、各教科等の学びの「深まり」の鍵となるのが「見方・考え方」であるという見解が示された。

**(3)「見方・考え方」と資質・能力の三つの柱の関係**

学習指導要領において「見方・考え方」は、育成を目指す資質・能力の三つの柱とは別の概念として整理されている。「見方・考え方」は「深い学び」の鍵になるものとされているが、これは「見方・考え方」を働かせることにより、資質・能力が育まれるということである。すなわち、各教科等の学びを通じて子どもたちが資質・能力を獲得する過程で、子どもたちが「働かせる」ものである。

また、「見方・考え方」を働かせることで資質・能力が更に育まれたり、新たな資質・能力が育まれたりする。またそれによって「見方・考え方」が更に豊かになる。というように、「見方・考え方」と資質・能力は相互に支え合う関係にあるとされている。

**(4)「見方・考え方」と当該教科等を学ぶ意義**

今回の改訂においては、なぜそれを学ぶのか、それを通じてどのような力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を再整理している。

な意義を明確にする議論が展開され、各教科等において育成を目指す資質・能力が三つの柱に基づき整理され、ともに「見方・考え方」も教科等ごとに整理された。「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」とされ、その教科等の本質、その教科等を学ぶ意義とも重なりとされる。

さらに、「見方・考え方」は「教科等の教育と社会をつなぐ」、言い換えれば、子どもたちが大人になって生活していく際にも重要な働きをするものでもある。

## II 「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業を実現する上で配慮すべき事項

**(1) 学習指導要領の各教科等の目標と「見方・考え方」**

まず、学習指導要領の教科等の目標に「見方・考え方」を働かせることが含まれている(※1)ことを確認する必要がある。

そして、各教科等の学習指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」1 (1)において、「見方・考え方」を働かせる授業を実現するための学習活動の工夫について記載されている(※2)。

「子どもたちが学習や人生において『見方・考え方』を自在に働かせられるようにすることにこそ、教員の専門性が発揮されるべきと求められる」とされ、「深い学び」の視点から授業改善をし、子どもたちの「見方・考え方」を働かせる授業に迫ることが、教師に期待されている。

## (2) 授業デザインと「見方・考え方」

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進める際には、子ども

たちが「見方・考え方」を働かせて学ぶような授業デザインを考えることが重要である。

各教科等の特質に応じて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、授業改善の在り方を検討することが求められている。

なお、各教科等の解説において示している各教科等の特質に応じた「見方・考え方」は、当該教科等における主要な「見方・考え方」を例示したもの(※3)であり、実際の授業で子どもたちが働かせる「見方・考え方」については、その例示を踏まえながら、学習内容等に応じて柔軟に考えることが重要である。

## (3) 学習評価と「見方・考え方」

観点別学習状況の評価の対象はあくまでも各教科等で育成を目指す資質・能力をどの程度身に付けているかどうかであり、「見方・考え方」を働かせているかどうかか自体を評価の対象とするものではない。

しかし、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中で子どもの学びを振り返り、授業改善を行う中で、子どもたちが「見方・考え方」を働かせることができているかを確認し、教師の更なる指導の改善等につなげることは重要である。

※1、※2、※3……資料2参照(各教科のみ作成)

## 【参考】

小学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 総則編  
初等教育資料2017年11月号  
初等教育資料2019年9月号

## 科学的に探究する活動を充実させるための指導の手立て

理科で育成を目指す資質・能力のうち、思考力、判断力、表現力等には、科学的に探究する力(小学校:問題解決の力)が位置づけられています。その資質・能力を育成するためには、児童生徒が理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する活動の充実を図ることが大切です。

**【中学校第2学年指導事例】** 単元名「化学変化と原子・分子～化学変化と物質の質量～」(5/6) 生徒の発言例は、見方・考え方を働かせている具体的な姿

ねらい: 金属の質量と化合する酸素の質量の比は一定であることを、金属を加熱したときの質量の変化を調べる実験を通して、見いだすことができる。

学習過程	各過程において育成を目指す思考力、判断力、表現力等と指導の手立て	生徒の発言例
① 問題課題	①問題を見だし、課題を設定する力 複数の事象を比較して、共通点や相違点を基に問題を見だし、課題を設定できるよう、事象提示を工夫したり、何について明らかにすればよいかを考える場を設けたりする。	前の時間の実験結果を表したグラフを確認しましょう。何か疑問はありますか。 加熱前の金属の質量を変えると、化合する酸素の質量はどうなるのか疑問です。 何に着目して調べていけば、問題が解決できそうですか。 金属の質量と化合する酸素の質量に着目して、関係を調べれば良いと思います。
② 仮説	②仮説を設定する力 既習の内容と関係付けて、根拠のある仮説を着想できるよう、既習の内容を想起する場を設ける。	金属の酸化については、前に原子や分子のモデルを使って考えましたね。そのときの学習シートを確認してみましょう。 マグネシウムも銅も、一つの原子に一つの酸素原子が化合したから、金属の質量と化合する酸素の質量は比例すると思う。
③ 計画立案	③観察、実験の計画を立案する力 条件を制御して観察、実験の計画を立案できるよう、変化させる要因と変化させない要因を確認する。	正確な結果を得るためには、どのような条件で実験すればいいですか。実験の結果はどうなりそうですか。 金属の質量だけを変えて、火力や加熱する時間は変えずに実験すればいいと思います。仮説が正しければ、金属の質量を2倍にすると、化合する酸素の質量も2倍になると思います。
④ 結果処理	④観察、実験の結果を分析・解釈する力 観察、実験の結果を適切に分析して、科学的な根拠を踏まえて論理的に思考できるよう、考察の視点を与えたり、互いの考えの妥当性を検討する場を設けたりする。	実験の結果のグラフから、仮説のとおり、金属の質量と化合する酸素の質量は比例していると言えね。 金属の質量が変わっても、マグネシウムと酸素の質量比は3:2、銅と酸素の質量比は4:1で化合しているよ。 一定の割合で化合するということだね。
⑤ 考察	⑤考察 科学的な根拠を踏まえて論理的に思考できるよう、考察の視点を与えたり、互いの考えの妥当性を検討する場を設けたりする。	グラフに着目して、金属の質量と化合する酸素の質量の関係について考察しましょう。個人で考えた後、グループで話し合いました。
⑥ 振り返り	⑥振り返り 学習の振り返りを行う。	
⑦ 次の問題	⑦次の問題 次の学習過程に入る。	